

サンタ新聞 第8号
 発行所：チャリティーサンタ新聞部
 (田村美佳/西脇友美/清輔夏輝/田野実温代/片桐未来/千藤鈴子)
 お問い合わせは info@charity-santa.com まで

サンタを通して

想いやりが繋がる社会に!



**全国16地域712家庭に
サンタが夢をお届け!**

はじめに

サンタ新聞をご覧いただき、ありがとうございます。このサンタ新聞は、チャリティーサンタに共感し、参加や応援していただいた方に向けて2008年から発行しています。一年を通し季刊誌として発行していますが、年度末にはボリュームアップして報告書を兼ねてお届けしています。この新聞を読んでいただけというよりは、チャリティーサンタとご縁があったということかと思っています。本年も関心をお寄せいただき、本当にありがとうございます。今回のサンタ新聞は全6ページ。各ページの内容は、左に記載してある通りです。まずは興味のあるところから是非ご覧になってみてください。

(代表 清輔夏輝)

福島の子どもたちと行く、バスツアー編
～夢のカケラを探しに行こう～

02

石巻の子どもたちへ届け、クリスマス編
～サンタさんは覚えているよ、キミのこと～

03

サンタさんの懐事情は?
2012年度収支報告

04

大人だけの秘密。
「未来の子どもたちへの手紙」

05

2012年度とこれからの私たちについて

06

福島の子どもたちと 夢のカケラを探しに行こう!

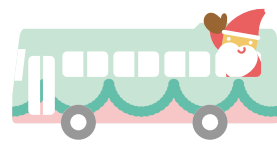


1日目

サプライズワークショップ
みんなでカレー作り
親御さんへ感謝を綴る手紙書き

2日目

職業体験@キッザニア



福島について

福島では、東日本大震災で地震、津波、原発の三重の苦しみを経験されています。かつ、福島原発の事故は深刻な問題を抱え、未だ解決の糸口が見えないまま、将来に対して不安を感じている方が大勢いると聞かれます。大人でさえ、絶望する現状。子どもたちは、その中で一生懸命に生きています。

2012年10月20日、21日。私たちはチャリティ・サンタは、福島大学の学生と協力し、福島の子どもたちを東京に迎える1泊2日のバスツアーを実施しました。ツアーで参加した子どもたちは、福島第一原発の事故により住み慣れた浪江町から離れ、仮設住宅での生活を余儀なくされている小学生20名です。



▲思いの「ありがとう」をかたちに。

サプライズワークショップ

到着後すぐに昼食をとった後は、「サプライズ」という仕掛けを通して誰かを喜ばせることのできる大人になつてほしい」という願いを込めて、サプライズワークショップを行いました。サプライズBOX(リボンやシール、色画用紙など、サプライズで使用するグッズが入った箱)から、思い思いの物を作つて、2日間お世話になる管理人さんに感謝の気持ちを伝えました。まさかのサプライズに、横山さんはとても感激してくれ、その喜ぶ姿を見て、たくさんの笑顔が溢れていました。個人的には、黒板に貼つてあった「キッザニア企画ありがとう」という絵を見て、「気持ちいがほっこり!」本当に嬉しく感じた一時でした。

バスツアーが残したもの

私たちが行った事は小さな事かも知れませんが、

キッザニアでの職業体験

キッザニアとは、子どもが好きな職業にチャレンジし、社会の仕組みを楽しく学べる施設です。子どもたちはここでいくつかのグループに分かれて、職業体験をする事になりました。絵を描くのが好きだからと漫画家になったり、実際にハンバーガーを作つて食べたり、美意識が高い女の子は美容カウンセラーになったり、新聞記者や裁判官など、様々な職業を体験している子どもたちの表情はみんな生き生きと輝いていました。

私たちが行った事は小さな事かも知れませんが、子どもたちが残したものは、多く笑顔を生み出す為に、今後も実施していきたいと思っています。(近藤 睦美)

支援活動を通じて、東北を訪れる度に感じるものがあります。それは「子どもたちの笑顔には、大人や社会を変える力がある」ということ。復興は子どもたちの笑顔から始まると思われています。なぜなら、彼らが未来そのものだから。震災の復興までの道のりは長く辛い事がたくさんあるかもしれませんが、人は夢や希望、笑顔があれば、それを糧にどんな困難でも乗り越えていくと信じています。

このツアーを通して、夢や希望が見つかったかの答えは、子どもたちの中にあるのだと思います。しかし、確かなこととして言えるのは、ツアーは子どもたちのたくさんの笑顔であふれていました。

福島へ帰るバスの中では、子どもたちから「今回のツアーを」またやらないの?という声が聞けてとても嬉しくなりました。



石巻の子どもたちへ届け！

～サンタさんは覚えてるよ、キミのこと～



2011年3月11日の東日本大震災から、2年の月日が経過しました。現地で被災地支援をしている方から話を聞いていると、被災地にお住まいの方の状況は刻一刻と変化し、それに伴って支援のニーズも変化しています。そんな中で「チャリティーサンタとしてどの様な支援ができるのか？」と私たちは考え続けてきました。

2011年度、宮城県石巻市内の蛇田小学校には12月24日にクリスマススイベント、それに加えてアイロンビーズ(※円筒状のカラービーズを並べ、モチーフを作り、アイロンの熱で溶接し作ったもの)を全校生徒約750名に贈り、4つの保育所(たんぼぼ保育園・橋浦保育所・吉浜保育所・相川保育所)にはクリスマス会を実施しました。(2011年度の支援詳細は、公式ブログに掲載中です。是非ご覧ください！)

私たちチャリティーサンタには、一度繋がることでできた支援先とのお縁を大切に、継続的に関わる事で被災地を忘れないという想いがあります。

今年もサンタを待っている子どもたちのために「2011年のサンタは石巻を忘れてはいない。」というメッセージを伝えたい。そのような全国の想いから2012年度は、「蛇田小学校」と「4つの保育所」にプレゼントを贈りました。

へびた 蛇田小学校の子どもたちへ



▲飾りがついたまのみの木

「昨年度のような大きなイベントができなくても、子どもたちの為に何かできる事はないだろうか？」全国16支部一丸となって、私たちに何ができるか考えました。「全校生徒一人一人に手紙を書こう！」「お花の種をサンタ折り紙に添えて渡そう！」など、素敵な意見が数多くできました。

その結果、終業式の前後、クラスご

とにサンタさんからの手紙が添えて、もみの木の形をしたアイロンビーズと、サンタの折り紙をロッカーに忍ばせ、サンタクロースからのプレゼントを贈る事にしました。

アイロンビーズは2011年度に蛇田小学校の子供たちへ贈られた思い出のプレゼントです。サンタ折り紙と共に贈ることで去年のサンタクロースが忘れずに来てくれた！というメッセージを込めました。

なぜ、モチーフをもみの木にしたのか。当団体の代表である清輔が10月に小学校に訪問した時の出来事です。1年前に私たちが植えたもみの木

が、校庭に今もいくつか飾りがついた状態で残っていると聞き、「遠く離れていても、蛇田小学校の子どもたちと繋がっている証がもみの木なんだなあ」と感じ、嬉しくなりました。もみの木の樹言葉は「明るい未来」。全国の支部で、子どもたちの笑顔がたくさん生まれる事と明るい未来を願い、約800個ものアイロンビーズを手作りで作成しました。クリスマスに先がけ、少し早いサンタさんからのプレゼントに、子どもたちも喜び、たくさん笑顔が生まれました。

これからも、私たちは校庭にもみの木のような、蛇田小学校の子どもたちを見守れるような存在になりたいと思っています。

保育所の子どもたちへ

(たんぼぼ保育園・橋浦保育所・吉浜保育所・相川保育所)

昨年度、ご縁をいただいた保育所には「サンタさんからのクリスマスカードをお送りしました。『昨年来たサンタクロースは、みんなの事をいつも想っているよ』という想いをカタチにしました。クリスマスカードは、メッセージの裏側A3サイズのポスターになる大きなもので、子どもたちが開いた時に驚きが楽しめるタイプの物を選びました！

後日、保育園の先生方にも子どもたちの元気な様子が感じました。

昨年度、ご縁をいただいた保育所には「サンタさんからのクリスマスカードをお送りしました。『昨年来たサンタクロースは、みんなの事をいつも想っているよ』という想いをカタチにしました。クリスマスカードは、メッセージの裏側A3サイズのポスターになる大きなもので、子どもたちが開いた時に驚きが楽しめるタイプの物を選びました！

後日、保育園の先生方にも子どもたちの元気な様子が感じました。



支援への 想い

今回の石巻支援は、アイロンビーズやクリスマスカードを送る事が重要だったのではなく、私たちが関わった子どもたちや石巻を始めとする被災地にいる方々を想い、小さな事でも、自分い何が出来たかを考えて行動する事が、とても大切だったのではないかと感じています。また、一度きりの支援ではなく、私たちが大切にしてきた「支援した子どもを見守っていく」という継続するという観点から、これからも、自分たちが関わってきた子どもたちに対して、精一杯笑顔にしていこうという働きかけが大切だと思いました。

まだまだ支援をする事の課題は山積みですが、全国からのご依頼主様からの暖かい気持ちがこもったチャリティー金で、世界中の子どもたちを笑顔にするために邁進したいと思っています。

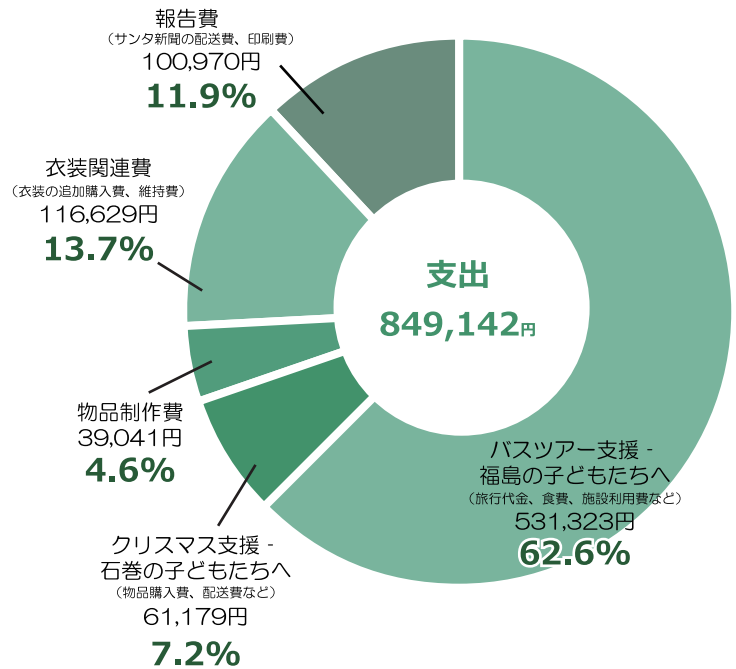
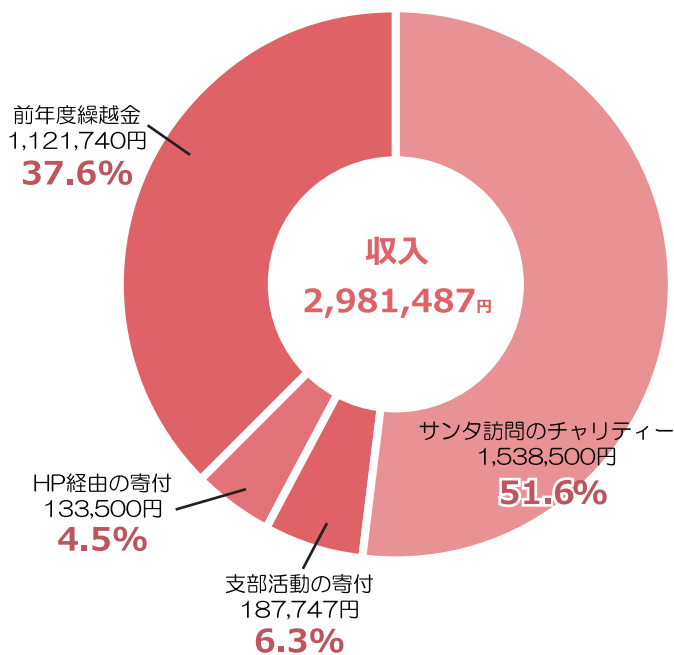
(近藤睦美)



▲蛇田小の子どもたちに贈ったアイロンビーズ



2012年度収支報告



2012年度支部別データ



基礎データ

支部	サンタ数	家庭数
札幌	77	29
仙台	40	15
群馬	37	15
東京	233	224
多摩	50	27
千葉	104	72
横浜	82	60
湘南	72	34
相模	40	15
甲府	86	64
都留	36	16
上越	12	6
名古屋	106	35
岡山	89	34
香川	73	17
福岡	91	49
合計	1,228	712

収入

支部	チャリティー	寄付	合計
札幌	74,500	400	74,900
仙台	32,000	0	32,000
群馬	28,000	9,000	37,000
東京	394,000	75,300	469,300
多摩	54,000	5,500	59,500
千葉	169,000	9,410	178,410
横浜	145,000	1,598	146,598
湘南	75,000	5,500	80,500
相模	36,000	10,530	46,530
甲府	132,000	6,000	138,000
都留	32,000	3,100	35,100
上越	12,000	0	12,000
名古屋	133,000	29,660	162,660
岡山	73,000	26,411	99,411
香川	46,000	2,838	48,838
福岡	103,000	2,500	105,500
合計	1,538,500	187,747	1,726,247

支出

制作費	衣装関連	報告費	合計
3,703	4,935	3,500	12,138
945	0	1,485	2,430
0	6,175	1,905	8,080
11,702	7,008	28,384	47,094
720	404	2,560	3,684
1,890	1,470	11,690	15,050
732	21,545	17,650	39,927
1,303	18,440	3,165	22,908
2,644	4,464	1,305	8,413
1,524	840	5,569	7,933
210	2,100	1,595	3,905
140	4,564	480	5,184
2,205	11,072	7,882	21,159
7,065	22,108	6,300	35,473
1,276	7,623	1,500	10,399
2,982	3,881	6,000	12,863
39,041	116,629	100,970	256,640

チャリティーサンタのお金の使途について

チャリティーサンタでは、ご家庭へ訪問する際に頂いたチャリティーをなるべく多く支援活動に使うような運営を心掛けています。どうしてもかかってしまう通常の活動運営費（ミーティングや参加者説明会などの場所代、イブ当日にかかる諸経費など）についてはボランティア参加者から参加費を頂いたり、活動にご賛同いただいた方からの寄付により賄っています。この活動運営費は、内訳の項目が多岐にわたり煩雑化してしまうため、収支ページには記載して

おりません。これらの詳細の費用についても、今後HPなどで掲載を検討しています。弊社では、明瞭で透明性のある収支報告を目指していきますので、ご不明な点などありましたら、info@charity-santa.com までお問い合わせください。なお、2013年度への繰越金(2,132,345円)の使途は、福島の子どもたちのバスツアーなどの実施費用とする予定です。



未来の子どもたちへの手紙



突然のことでびっくりしたかな？
これからする告白は、あのクリスマスの日のできごとです。
大人の仲間になったキミに、あの日のことを話す時がきました。
こころの準備はいいですか？さあ、はじめましょう！

2012年12月24日。キミはサンタに会ったことを覚えていますか？
そう、ワタシはあの時の「サンタクロース」。
あの日、キミの家族がキミを喜ばせようとワタシにプレゼントをたくして
それを持ってキミに会いに行ったのです。
でも・・・実はあれは1軒いくらかのチャリティーをもらうことで、キミだけ
じゃなく、
東北の子どもたちも笑顔にしよう、というチャリティーの企画だったのです。
それを「ステキだね」っていつてくれたキミの家族がワタシたちを呼んでくれ
たというわけです。

キミの家族が、キミとだれかのしあわせを願って来て、
クリスマスにはたくさんさんのチャリティーがあつまりました。

そして、そのチャリティーで2011年に起こった東日本大震災を経験した子ども
たちに
「未来への希望」と「笑顔」をプレゼントする事ができました。

キミがこの手紙を読んでいる頃には、あの子どもたちのサンタになっていたの
で成長しているでしょう。
サンタがキミのおうちに来たあの日。
キミの家族や、実はキミ自身が、東北の子どもたちのサンタになっていたの
です。
キミを喜ばせたいと願う家族、そしてなによりもキミがいたから
東北の子どもたちへ「笑顔というプレゼント」を届けることができました。
本当に、本当にありがとう。

今キミにとってサンタクロースはどんな存在ですか。
ワタシはキミのサンタになって、
キミとキミの家族や東北の子どもたちと出会えて気づきました。
「だれかを笑顔にしたいって気持ち」が「サンタクロース」なのかもしれないって。
大きくなったキミへ 2012年のサンタクロースより

「サンタクロースは現実には存在しないんだ・・・」
子どもたちがいつかそう思ったそんなときこの手紙によって、
「サンタはいないのではなく、『誰かを笑顔にしたいって気持ち』がサンタ」なんだよ、サンタはいるんだよ」
ということを、子どもたちに伝えたい。
「誰かのために何かをすることはステキなことだよ」
誰かを笑顔にするために、思いやりを持って行動に移してくれたら、
未来の社会が明るくなっていく。
そんな想いを込めて手紙を書きます。

お子さまをいつも近くで見守る親御さんから、ときを見て、
同封した手紙を渡してあげてください。
自分を喜ばせるために依頼してくれたという親御さんの愛情を、
将来子どもたちが感じるきっかけにもなれば良いなと思っています。



サンタさんからの メッセージ

代表・清輔夏輝より

「2012年度と これからの私たち」

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ことが目的ではなく「想いやりがつなげる社会」を目指すためにサ

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ことが目的ではなく「想いやりがつなげる社会」を目指すためにサ

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ことが目的ではなく「想いやりがつなげる社会」を目指すためにサ

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ことが目的ではなく「想いやりがつなげる社会」を目指すためにサ

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ことが目的ではなく「想いやりがつなげる社会」を目指すためにサ

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ことが目的ではなく「想いやりがつなげる社会」を目指すためにサ



また、新しい取り組みとして、高校や大学、企業や行政、大小様々なイベントなどで、チャリティサンタについてお話をする機会を多数いただきました。例えば、アパレル大手の欄ナルミヤ・インターナショナル様には、社員研修という形で私たちの活動を実施し、社長をはじめ20名余りの社員の方にご参加いただ

また、新しい取り組みとして、高校や大学、企業や行政、大小様々なイベントなどで、チャリティサンタについてお話をする機会を多数いただきました。例えば、アパレル大手の欄ナルミヤ・インターナショナル様には、社員研修という形で私たちの活動を実施し、社長をはじめ20名余りの社員の方にご参加いただ

また、新しい取り組みとして、高校や大学、企業や行政、大小様々なイベントなどで、チャリティサンタについてお話をする機会を多数いただきました。例えば、アパレル大手の欄ナルミヤ・インターナショナル様には、社員研修という形で私たちの活動を実施し、社長をはじめ20名余りの社員の方にご参加いただ

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

ジョンの設定です。「Charity with Action」の想いやりがつなげる社会へ」というサンタもクリスマスも入っていない内容にしました。それは、サンタをやる

次号予告!
メールマガジンにて7月配信予定!
* HPやFacebookも随時更新中 *

チャリティサンタ

クリスマスは、札幌から福岡まで全国16支部で、655家庭を訪問し、夢と笑顔を届けることができました。そして、1228人のサンタも同時に笑顔と感動をいただきました。チャリティサンタに関わってくれた皆様、本当に本当に、ありがとうございます。

また、新しい取り組みとして、高校や大学、企業や行政、大小様々なイベントなどで、チャリティサンタについてお話をする機会を多数いただきました。例えば、アパレル大手の欄ナルミヤ・インターナショナル様には、社員研修という形で私たちの活動を実施し、社長をはじめ20名余りの社員の方にご参加いただきました。

きつとあなたがこの新聞を読んでいる今この瞬間も、全国のどこかで「チャリティサンタをもっと良くしていきたい」と、誰かが頑張っています。そんなメンバーが1人、また1人と増えて、徐々に広がり、日本中に活動を広げていきます。そして近い将来、世界にも広がって行きたいと思っています。

作ること、団体の運営費が生まれ、ネパールの子どもたちに学習の機会が作られます。これらの仕組みもサンタメンバーからの提案で、実施に向けて試作を作っています。(今後の動向については、メールマガジンやフェイスブックページなどでお伝えします)

次のクリスマスまで、あと9ヶ月。ですが私たちが見ているのはそこだけではありません。プレゼントを貰った子どもたちが成長して、今度はサンタとして「届ける側になる」こと。それがまた次の世代へ次の世代へとつながり、文化になること。見ず知らずの誰かのために行動することが当たり前になる。そして想いやりがつながる社会に。私たちが目指すのはそんな社会です。チャリティサンタと一緒に、そんな社会をつくっていきませんか?

(代表 清輔夏輝)